

企画・制作
日刊工業新聞社
西東京支局

東京・多摩エリアの有力

リガク



志村 晶 社長

研究用・工業用X線機器で約80%の国内シェアをもつリガク。昨年12月に60周年を迎える、「グローバル化の推進」と「イノベーション(企業改革)の断行」という二つの長期経営方針を掲げた。「グローバル・ワン・リガク(リガクは世界で一つ)」の思想の下、グローバル活動のためのITインフラ作り、経営スピードの向上と効率化を積極的に推進する。

足元の状況をどう見ていますか。
「東日本大震災、原発事故、タイの洪水、異常な円高進行など未曾有の厳しい環境下に置かれていましたが、過去数年にわたり経営構造改革の遂行により利益水準は改善しています。また、半導体不況と競争激化で苦戦している半導体事業も電子ビーム描画装置4台の受注が確定し、財務体质は確実に改善している」
競争力のある装置を開発することが事業拡大の要諦である。世界最高レベルの原子分解能分析

技術を医療用に応用す
ることで見えたが、東日本大震災や歐州経済の減速が影響した。新興国経済も外資本逃避により減速した。
4月以降の外部環境をどう見ますか。
「米国が回復基調にある一方、不安定な為替、設備投資動向も不透明で予断を許さない。一方、当社では物性分析用に培った技術を医療用に応用す
ることで見えたが、東日本大震災や歐州経済の減速が影響した。新

新分野へ新製品投入

ヨーロッパ・南米、北米、中国、韓国、米国に生産拠点があり、東南アジア向けが中心に生産する中国の現地子会社では、来年3月までに「場床面積を最大5倍に増築する」2輪車向け中心から車両も生産し、現行の年15台から2倍の年30台に増産する。内高対策の一環で現地生産比率を約15%から20%に引き上げ、「コストメリットを追求する」

日本電子



栗原 権右衛門社長

ハイエンド理科学・計測機器の製造・販売を事業とする日本電子(NEOL Group)。1社でこれほど幅広いラインアップを持つ企業は世界的にも他に例がない。その強みを生かし、グリーンテクノロジーや食品安全などアプリケーションサイドから光を当てたセミナーを開催しており、同社の全製品群を集結した最適ソリューションの提供を行っている。

足元の状況をどう見ていますか。
「東日本大震災、原発事故、タイの洪水、異常な円高進行など未曾有の厳しい環境下に置かれていましたが、過去数年にわたり経営構造改革の遂行により利益水準は改善して

いる。また、半導体不況と競争激化で苦戦している半導体事業も電子ビーム描画装置4台の受注が確定し、財務体质は確実に改善している」
競争力のある装置を開発することが事業拡大の要諦である。世界最高

全製品群を集結した

電子顕微鏡『JEM-A RM200F』、業界で初めてマルチタッチパネルを採用し直感的操作を実現した分析用走査電子顕微鏡『Intouch』、柱の一つが「地震シミュレーション」を実現するサーボモーター関連事業の事業戦略は、柱の一つが「地震シミュレーション」を実現するサーボモーター関連

電子顕微鏡『JEM-A RM200F』、業界で初めてマルチタッチパネルを採用し直感的操作を実現した分析用走査電子顕微鏡『Intouch』、柱の一つが「地震シミュレーション」を実現するサーボモーター関連事業の事業戦略は、柱の一つが「地震シミュレーション」を実現するサーボモーター関連で売上高も110億円と同様に目標を狙う。利益も今期と同等レベルを目指す

国際計測器



松本 繁 社長

振動計測技術をベースに、自動車のタイヤやモーターなどの振動を測定し、「釣り合いよさ」を計測するバラシングマシンを手がける国際計測器。専門メーカーとして日本でトップシェアを獲得するとともに、回転機器の品質向上にも貢献している。ここ数年、電気サーボモーター式振動試験機の開発に取り組み、中期の成長事業として期待されている。

足元の受注環境は、「リマンショック後には落ち込んだ受注は2010年1月から回復に向かい、11年3月期は過去最高の約120億円となり、9月期まで続いた。ビーカーは10月以降には中国など東南アジア向けが落ち着き、受注は依然として高い水準にある」

4月以降の需要動向を踏まえ、2011年3月期を展望すると、「タイヤ向けバランスングマシンは中国の設備投資が一巡し、12年3月期と同等か若干落ちると、受注は依然として高い水準にある」

高とも110億円と同様に目標を狙う。利益も今期と同等レベルを目指す

電子顕微鏡『JEM-A RM200F』、業界で初めてマルチタッチパネルを採用し直感的操作を実現した分析用走査電子顕微鏡『Intouch』、柱の一つが「地震シミュレーション」を実現するサーボモーター関連事業の事業戦略は、柱の一つが「地震シミュレーション」を実現するサーボモーター関連で売上高も110億円と同様に目標を狙う。利益も今期と同等レベルを目指す

電子顕微鏡『JEM-A RM200F』、業界で初めてマルチタッチパネルを採用し直感的操作を実現した分析用走査電子顕微鏡『Intouch』、柱の一つが「地震シミュレーション」を実現するサーボモーター関連で売上高も110億円と同様に目標を狙う。利益も今期と同等レベルを目指す

電子顕微鏡『JEM-A RM200F』、業界で初めてマルチタッチパネルを採用し直感的操作を実現した分析用走査電子顕微鏡『Intouch』、柱の一つが「地震シミュレーション」を実現するサーボモーター関連で売上高も110億円と同様に目標を狙う。利益も今期と同等レベルを目指す